

ミヤベイワナ

これは然別湖です。このとがち鹿追ジオパークの宝のひとつです。

然別湖には、ミヤベイワナが住んでいます。然別湖にしか棲息していない魚です。

オシロコマの亜種で、イワナの一種。サケやマスとの親戚です。ミヤベイワナは、体長約 40 センチメートルまで成長する場合があります。

オシロコマにもミヤベイワナにも、「サイハ」があります。「サイハ」によって、えらで呼吸する際にプランクトンを濾しとることができるのですが、ミヤベイワナは、オシロコマよりも多くの「サイハ」を持つように進化してきました。

ミヤベイワナの独特な進化は、環境の変化に対応したもので、その過程には然別湖の成り立ちが大きな役割を果たしています。

然別湖は、数百万年にわたって繰り返された噴火と火山活動の副産物です。

火山活動は、然別湖の現在位置の北東で、6500 万年前から 180 万年前までの第三紀に始ま

りました。

その後の火山事象は、火山である北ペトウトル山と南ペトウトル山が位置する、然別湖の西で生じました。これらの火山は、然別火山群の一部で、約 30 万年間、活動が続いています。

直近の火山事象は、6 万年前から 1 万年前までに、然別湖の南と南東で生じたものです。この期間に、いくつかの溶岩ドームができました。これらの溶岩ドームも然別火山群の一部であり、鹿追の町からいつでも見ることができます。

火山活動のこの長い歴史の中で、然別地域の周囲を山々が部分的に囲むようになりました。この地域を流れる川は徐々にせき止められ、然別湖が生まれました。

さらに年月が過ぎ、然別湖の南西に大きな溪谷ができました。然別湖からの水がこの溪谷を流れはじめ、出口近くに落差 10 メートル程度の滝ができました。

然別湖のこのような形成過程は、川に生息してきたオショロコマに甚大な影響を与えました。

オショロコマは然別湖に閉じ込められ、滝のせいで下流に移動できなくなりました。つまり、標高が高く、

食物源が限られているという、過酷な新しい環境に順応する必要がありました。

プランクトンは、存在する数少ない食物源のひとつで、プランクトンに依存する必要性は、以前よりはるかに大きくなりました。

オシロコマは、数万年をかけて、然別湖のプランクトンをより効果的に捕食するために「サイハ」を増やしたのです。

北海道のオシロコマには、21～22 個の「サイハ」があるのが一般的ですが、然別湖で進化してきた亜種であるミヤベイワナには 26 個の「サイハ」があります。

ミヤベイワナが長期間をかけて徐々に進化したのと対照的に、劇的な変化が、この 100 年間に生じました。これらの変化は、日本本土から来た日本人による北海道の開発・植民とともに生じたものです。

鹿追町の人口が増えると、鹿追町の人々は然別湖で魚を捕り、ミヤベイワナの数は減少しました。

また、移住者たちは、ニジマスやサクラマスなどの非在来種を然別湖に導入しました。これにより、すで

に限られていた食物源をめぐる競争が引き起こされ、ミヤベイワナの大きさが変わっていきました。ミヤベイワナの体長は、およそ 100 年という期間で、70 センチメートルから、約 40 センチメートルになりました。

捕獲は、今もミヤベイワナにとって脅威であり、ミヤベイワナの数を保つために、養殖計画などの保護の努力が行われています。

しかし、直近の脅威は、ウチダザリガニによるものです。ウチダザリガニは、日本中でさらに広がりつつある侵入種です。

ミヤベイワナは、然別火山群の継続的な火山活動を象徴する種です。ミヤベイワナの生存を保障するには、保護活動と注意深い監視が重要です。